

力の先にキラリと光る何か ひとつ向き合うことこそ人生

対
リレー
談



紫舟

書家／アーティスト

代表作、NHK 大河ドラマ『龍馬伝』、美術番組『美の壺』、伊勢神宮『祝御遷宮』、内閣官房『JAPAN』、ディズニー・ピクサー『喜悲怒嫌怖』、資生堂×紫舟コラボ。

天皇皇后両陛下に紫舟展を御覧頂く（2017 愛媛県美術館）。

フランス・ルーブル美術館地下会場で開催されたフランス国民美術協会展で、書画で金賞、書の彫刻で最高位金賞と、日本人初の金賞ダブル受賞。「北斎は立体を平面に、紫舟は平面を立体にした」と評価（2014）。翌年同展にて世界で1名枠とされる「主賓招待アーティスト」に選出。日本人では横山大観以来、現存日本人初。

日本の伝統文化である「書」を、書画・彫刻・メディアアートへと昇華させながら、文字に内包される感情や理を引き出し表現するその作品は唯一無二の現代アートとなり、世界に向けて日本文化と思想を発信している。

若い頃からのスバルタ指導があつたから
子ども心に学んだことは
伸びるよりしっかり根を張る大切さ
生きの苦しみはモノを生み出す苦しみではなく
何かができる領域に到達するまでの時間のこと……
できるといつことは早く無限にできるといつこと

トップになるには才能が必要、努
困難の姿でやってくる夢に、ひとつ

赤塚保正

(株)柿安本店代表取締役社長

1963年三重県生まれ
1987年3月慶應義塾大学法学部卒業、米国ニューヨーク州へ留学
1989年6月 株式会社柿安本店入社
2001年4月 常務取締役
2004年12月 専務取締役
2006年12月代表取締役社長（6代目）に就任、現職中
2017年7月現在一般社団法人日本フードサービス協会（JF）
副会長及び食材調達・開発等委員長

自分を裏切らずにいれば
筆をおかなければならぬ時は来ないとと思う
総ての命を敬い、他の存在を尊ぶことの素敵
慈悲と言つ言葉を超えた人に一歩でも
近づけるよう努力したい……
生み育ててくれた親へ贈りたい「恩」の文字



「銀座別邸」屋号の書は
赤塚社長のイメージ

赤塚 リレー対談のお相手に指名させて
頂きましたのは、書家の紫舟さんです。
どうぞ宜しくお願いします。

赤塚 この「銀座別邸」がオープンする
にあたって、紫舟さんに屋号のデザインを
描いて頂きました。私はNHKの大河ドラマ
が好きで必ず見ており、2010年の
『龍馬伝』のオープニングで紫舟さんの字
を拝見して、お名前を知りました。もうひ
とつは、2013年に行なわれた伊勢神宮

柿安創業145周年を何か形にして残した
いと考え、東京初進出の地である銀座に
オープンしました。紫舟さんには、1時間

の式年遷宮に際して「祝御遷宮」と揮毫
して奉納なさり、私は三重の出身なので
お会いしたこともないのに「いつかお目にか
かって書をお願いできないだろうか」とそ
の頃から憧れを持ち続けていました。1年

半前に新しいコンセプトで、柿安のフラッグ
シップ、いわゆる、看板店を銀座に創る時に、
憧れの紫舟さんに屋号のデザインを実際打
診させて頂くことが叶いました。

赤塚 この店はお客様や社員に向けて
紫舟 丁寧に額装して飾って下さってとて
も嬉しいです。

赤塚 当初、私の部屋にかけていたのです
が、それでは独り占めになってしましますの
で、お越し頂くお客様にご覧頂きたいと
思つて、「愛宕」という一番いいお部屋の
入口に、さりげなく飾らせて頂いています。
このビルは、よく見ると少し流線形で、そ
れも意識して下さったのかなと想像してい
ます。

紫舟 最終案として、ひとつは力強い感じ
の作品、もうひとつは、少し優しい感じの
作品を、それぞれ2パターンをお持ちして、
「後は、赤塚さんご自身で選んで頂ければ」
と申し上げました。

赤塚 凄く迷いましてね。あの時、紫舟
さんは「おそらく、お父様の会長さんでし
た前者、赤塚社長でしたら後者の字です
ね、ちょうど優しい感じなので」とおっしゃっ
たんですね。

紫舟 赤塚社長はとてもとても文化的で、
社長職をしていらっしゃらなければ、篠笛
を吹いたり能を舞つたりされていたのではないか
と思います。

赤塚 紫舟さんにも通じる世界です（笑）
紫舟 そいつた、文化的な細部に行き届く
感性や感覚は、「どうしり」ではありません。
打ち合わせに伺った時も、「お店の玄関が大事
だ。エレベーターを降りた瞬間の感覚が大事



が、「銀座別邸」の屋号であり、紫舟さん
との縁の始まりです。

紫舟 赤塚社長と初めてお目にかかったのは
2年ぐらい前でしたね。

赤塚 「銀座別邸」という屋号のデザイン
を決めるにあたって、何度も何度も描いて
頂きました。実際にアトリエにもお伺いし
ましたが、その迫力たるや本当に凄かつた
です。

紫舟 書を書く時には、実際の内装は
できる前でしたが、デザインを見せて頂い
ておりました。お会いしたときに頂いたこ
本で、柿安様の沿革や、歴代の社長のお人
柄を知り、制作に取りかかりました。打ち
合わせの時に社長が「『さすが柿安だ』と
言われるようなお店を作りたい」と、何
度も仰っていたのがとても印象的でした。

赤塚 そんなに何度も書いていましたか（笑）
紫舟 最初に依頼頂いた時は、太い字
がいいとのことでしたので、太い字も書きま
したが、どうしり書くとこの本に出てくる先
代の様な雰囲気になってしまって……。

赤塚 先代のイメージは、力強い
ですからね。

紫舟 赤塚社長はとてもとても文化的で、
社長職をしていらっしゃらなければ、篠笛
を吹いたり能を舞つたりされていたのではないか
と思います。

赤塚 紫舟さんにも通じる世界です（笑）
紫舟 そいつた、文化的な細部に行き届く
感性や感覚は、「どうしり」ではありません。
打ち合わせに伺った時も、「お店の玄関が大事
だ。エレベーターを降りた瞬間の感覚が大事



なんだ」と、細部に至る、クリエイティブな神を熱く語っていました。これだけ大きな会社の社長といつお忙しい立場でありながら、屋号にこれほど時間を割いて熱く語られる方はそうはいらっしゃいません。と言ることは、題字だけではなく、お皿一枚、社章ひとつにも、総て現場に行っておられるんだろうと、お察しました。そういう方が作るものと、担当者任せのものとでは、完成品が全く異なるありますよね。社長がクリエイティブで、もの創りへの敬意を持ついらっしゃることが伝り、そのような部分も本当に私と近く感じ、制

作意欲がますます沸きました。
赤塚 この文字を書いて頂いた紙は、一般的な和紙ではないですね。どうしてこの紙を選ばれたんですか?
紫舟 流れる様に書きたいと思っていたので、普段作品に使っている和紙も100種類ぐらいの紙の中から選んだものです。その中から厳選した数種類から、赤塚社長のイメージに合うものを選びました。実は、屋号の書を一点ご決定頂いた後で、もうひとつ書きました。採用して頂いた書には細い線が2本あり、小さく縮小した場合に使い難いのでは、と思い同じような書体でもう少し太い線で書き直し、そちらも

却下させて頂きました。
赤塚 お蔵入りにしてしまったんですね。
紫舟 使いやすさという点では、似せて描いたものの方がいいのかもしれません。本物が持つものと真似たものが持つものの差は、僅かですが、一流を見ている方には見抜けたのです。
赤塚 うちの設備担当はこの看板を作りにあたって、この書体の字が細くて大変苦労をしていましたが、そこまで考えて下さったことに本当に感謝致します。

実業家・赤塚氏と書家・紫舟氏

「縁と共通点は……?」

赤塚 紫舟さんは、2015年のミラノ万博の日本館に作品を出しておられました。柿安もすき焼きレストランを出していましたので、2週間程滞在していた間に何度も日本館に足を運んで紫舟さんの作品を拝見しました。

紫舟 スイスのIOC本部の委員の方々から作品の説明をしてほしいと依頼を受け、その日は世界の要人がいらっしゃっている日と重なり、遅れて説明に伺うと、ちょうど彼らは柿安様のすき

「提案しました。でもそれは、ご決定頂いたもののに似せたもので、ゼロから生み出したものとは違いますから、見抜かれて

します、それで、勝手に描いて勝手に却下させて頂きました。
赤塚 お蔵入りにしてしまったんですね。

紫舟 使いやすさという点では、似せて描いたものの方がいいのかもしれません。本物が持つものと真似たものが持つものの差は、僅かですが、一流を見ている方には見抜けたのです。

赤塚 うちの設備担当はこの看板を作りにあたって、この書体の字が細くて大変苦労をしていましたが、そこまで考えて下さったことに本当に感謝致します。

焼きセットを召し上ががっていましたよ。
赤塚 三重県でのご縁、ミラノでのご縁、そして銀座でのご縁、知り合う前にもそんな縁があつたんですね。

紫舟 ご縁は不思議ですね。ところで屋号はどういうイメージで額装して下さいましたか?

赤塚 看板というのはお店の顔ですから、当社の美術担当が飾る場所の壁の色や照明をトータル的に考えて、紫で品よく、かつや豪華に決めました。実は「柿安」の名前を入れない看板を作るのは今回が初めてです。先代、先々代から必ず「柿安」をつけることにこだわってきました。弊社のグループは、現在約400店舗ですが、和菓子も含め全部「柿安」がついでいます。今回、「銀座別邸」だけは、あえて「柿安」をつけないことを、先代に了解をもらつた上で、描いて頂きました。そういう点では私共にとって新しい試みであり、145年に至つての大きな決断と言えます。

紫舟 今後も「柿安」をつけない展開を考えいらっしゃるのでしょうか?

赤塚 この「銀座別邸」は、柿安のブランド名アーブランドなのです。柿安のブランドは、松阪牛を使っている銀座7丁目の料亭は「柿安」、お惣菜は「柿安ダイニング」、ビュッフェレストランは「柿安三尺三

紫舟 さうですが、どのようなプロジェクトですか？

赤塚 これまで海外展開していた商品は、現地でデザインしており、世界で統一したデザインがなかったそうです。それで、初めて日本で世界統一デザインの商品を発売する時に、資生堂様がコラボレーションのパートナーを選んで下さいました。

赤塚 書だけでなく、絵もデザインも手がけられたそうですね。

紫舟 書は6歳から始めていましたが、もともとは絵描きになりたいと思っており、今でも日々絵を制作しています。今回、思ひがけずその夢が実現しました。社長の夢は、何でしたか？

赤塚 海外で金融関係の仕事をしたくてアメリカに行つた時に勝手に就職を決めて来ただですが、残念ながら強制送還になりました（笑）

作家の地位を高めること

「モノづくり日本」をつなぐこと

赤塚 紫舟さんの書との出会いについてお聞かせください。

紫舟 父方の祖母には、孫は全員、日本舞踊と習字を習うというルールがありましたので、日本舞踊は4歳、書道は6歳から始めました。両親は書道家ではありません。兄弟もい

寸箸」、和菓子も「柿安口福堂」としています。しかし「銀座別邸」については、ブレミアムブランドということで、敢えてつけていません。この先はお客様、立地条件、そして、どういうものを取扱うかによって、柿安創業150周年に当たる2020年

また描いて頂くためにも、もっと私が努力しないといけません。天皇皇后両陛下を松山の個展でご案内しておられたのをテレビで拝見しましたので、もう描いて頂くのは難しいかなとも思いますが、一方で、私の熱意や頑張りを見と評価して下さる方なので、私の努力をご覧頂ければ「いいですよ」とおしゃって下さるかなと期待しています。

赤塚 紫舟さんの書との出会いについてお

紫舟 あの時は、私が本命ではなくて広告代理店さまが担当するはずでした。土日を含み最終決定の5日前にNHK様から「いいものが出てこない。代理店コンペを何度も中々決まらないで」と電話があり、コンペに参加してほしいと言われたのです。まだどんな大河ドラマになるのか決まっていなかつたので、「竜馬がゆく」を読み、福山雅治さんの音楽を聴き、手に入る情報的身体に入れて、柿安さまのプレゼンと同様に、2案持つてNHKさんへプレゼンに行きました。私は代理店さまの後でした、その時、目の前に座つている10人ほど



さうですが、どのようなプロジェクトですか？

ここも全員お稽古に通いました、書家になたのは私一人です。祖父母は、自身でも週一回掛け軸を変えて季節の設えをし、お茶を点て、日本舞踊を舞い、一方で水墨画家や陶芸家や刀鍛冶など文化人を支援していました。おかげで文化的なものに囲まれて育ちました。日常的に文化に触れる人がいる環境は、赤塚社長もそうだと思います。私と赤塚社長と似ているところです。



「JAPAN」

は作家に持たせてほしいとお願いをしました。当時は、総ての権利を、依頼者が持つことが主流で、制作した本人には何も残りませんでした。今でも多くの大企業がそうですが、モノをつくった本人の名前を、表に出してもらえることもありません。モノづくり日本は、モノを作りだしたものへ

東京に来る前は、大阪で仕事をしていましたが、お金が支払われないことも普通になりました、支払うときになつて減らされていたりと、作家の地位は底辺に近い状態でした。「『モノづくり日本』が崩壊しないよう、モノを生み出せる者の地位向上のためにお願いをしました。

赤塚 そんなことが本当にありますね。

紫舟 NHK様が変われば、社会は変わると思い、利用許諾の形でお願いし、著作権利は本人に残してほしいと丁寧にお話をしました。普通の担当者は、それは譲れませんよね、大河ドラマの題字は、書家にとっては喉から手が出るほどほしい仕事で、「権利を残してほしい」なんでおこがましくて言えないのですが、これから私の後に統いて行く多くの作家のことを考えると、どこかで変えなくては……。変えることができればいい、もし変えられなくても、ここで私がモノづくりに関わる文化人の一員として大切に思うことを曲げてしまうと、私の作家人生は少しづつしていすれば違う所に行ってしまうと分かっていましたので、それではいけないと決意しました。何日か経つて、最終的にNHK様に理解頂きました。作家の地位向上のために、モノづくり日本の

の契約は常に不利で、敬意も少ない社会でした。それは、モノづくりに携わる一員として、次の世代に残したくない慣習です。東京に来る前は、大阪で仕事をしていましたが、お金が支払われないことも普通になりました、支払うときになつて減らされていたりと、作家の地位は底辺に近い状態でした。「『モノづくり日本』が崩壊しないよう、モノを生み出せる者の地位向上のためにお願いをしました。

赤塚 そんなことが本当にありますね。

紫舟 でも作品がよくないと買いませんよ。弊社の幹部が使う会議室には、「紫舟さんが描いて下さった力強さのある「底力」」という書がかかっています。商売にはやはり最後は底力が必要ですからね。また、会社としてお店として、お客様への感謝の気持ちや温かい気持ちを表現した書を揮毫して頂きたいとお願いしているところです。

赤塚 ありがとうございます。今日せつかくお会いするのでと思って、先日アトリエでご依頼いただいた作品の途中ですが3文字まで書いておりますのでご覧になつていただければ……。

赤塚 ありがとうございます。いやあ、素晴らしいです。

紫舟 イメージは、社長が本当に感動した時に見せて貰える、社長のキラキラし

た時に見せて貰える、社長のキラキラし

が喜び、そして光る感じに仕上げています。

赤塚 ここで曲げたら、文化がおかしくなる、っていうのがいいですね。本当に完成が楽しみです。

紫舟 そうです。赤塚社長には私の作品を複数お持ちいただいています。それは私の未来や日本の文化を支えて下さっているの

だと思っています。それによって私は次の作家家ニアシスタンントを育てることができ、さらに次の作品を制作でき出来るのです。書に限らず、多くの文化は、買い支えることで、次世代へつなぐことができるのです。

赤塚 でも作品がよくないと買いませんよ。弊社の幹部が使う会議室には、「紫舟さんが描いて下さった力強さのある「底力」」という書がかかっています。商売にはやはり最後は底力が必要ですからね。また、会社としてお店として、お客様への感謝の気持ちや温かい気持ちを表現した書を揮毫して頂きたいとお願いしているところです。

赤塚 ありがとうございます。今日せつかくお会いするのでと思って、先日アトリエでご依頼いただいた作品の途中ですが3文字まで書いておりますのでご覧になつていただければ……。

赤塚 本当に想像力、空想力が非常に豊かでいらっしゃいますが、幼少時からの環境の影響、才能についてどうお考えですか?

紫舟 一桁の年齢の時に「自分の才能がどこにあるのかを探そう」と思いました。6歳から書を習つてきました、24時を回つてもできるまで帰らせてもらえない厳しい先生でした。10時間も書いていると、手が勝手に動き出す感覚を、小学生時代からよく感じていました。そんな風に子供の頃から訓練を受け、それだけの時間と労力を



間は、才能やセンスというよりも努力で、入り口まで到達するのだと思います。

そして、できる領域に入ると、今度は無限にできるのだと思います。早く、大量に、無限にできる。ですから、才能はここから先に発揮されるもの・必要なもので、ここ

までは努力と諦めない才能があれば到達できるように感じています。そして、「きっと自分を裏切らなければ、筆をおかなければいけない時は来ないだろう」と思っています。

赤塚 「継続の力」みたいなものですか？

紫舟 そうですね。1万時間費やす。それが入口なのかなと思います。

赤塚 そこまでいかないと才能は発揮できない、ということですか。

紫舟 1万時間までは努力で到達できる、ここからは、何かキラリと光るものが必要なのかもしれません。それは、子どもの時に「才能があるのを探そう」と思つていましたが、費やした時間が足りませんでしたので、結局自分で才能が見つけられなかつた、才能は芽を見せてくれない。子どもの時からお習字の練習を全然しなくても

「間」ということでした。書はその「できる」という入り口に、他の好きなことや得意な領域に到達するまでの、凄まじく長い時間が、書は才能がなかつたので、親に頼じたので、書は才能が必要だと感じていますね。

紫舟 トップになるには才能が必要だと感じたので、書は才能がなかつたので、親に頼みバイオリン、剣道、合気道、華道あら

ゆるお稽古事をさせてもらい、自分の才能があるところを探しました。合気道は大好きでしたらが…。ですから生みの苦しみが6歳からずっと続いているのです。その

ましたよね。紫舟さんも、努力をなさうに神様がお与えになったものがあつて、それが書家としての道を拓いたのではないでしょ？ 24時過ぎまで指導し続けてくれた師匠との出会いも、大きかったのかもしれませんね。

紫舟 子どもは20時には寝ていますよね。それなのに24時を過ぎても帰らせてくれないで泣いてみました。涙は全く通用しませんでした…。そこまで追い込んで下さったので、子どもながらに否が応でも「伸びるより根をしっかりと張ることの大しさ」を学びました。

赤塚 子どもの頃に「自分の才能を探す」というのは、ある意味子どもじゃないですね。普通はもっと単純で、好きだからこれをやり続けたい、という欲求が強いのですが、なぜ「自分の才能はどこにあるんだろ」と思われるんですか？ 「お嫁さん」とか「ケーキ屋さん」とかではなく、最初から、将来は自分の才能で何かをやりたいと思っておられたわけですね？

紫舟 いろんなことに対して深く考える子どもでした。同じことを何年も考え続けたりします。大人は自分の夢は語らないまま、子どもに「夢は何？」と聞きますね。すると、子どもは「サッカー選手」「お花屋さん」などと答えます。誰もが職業を答えます、職業はそれほど大切なものと幼い

赤塚保正氏×紫舟氏



ながらに思いました。当時は、私の夢が何とか分からなくなっていたけれど、その夢に値するほどの天職は何だろう、と。一方で、特に何かなりたいのものもなく、そこで「才能を探そう」と行きました。

ることもありますが、紫舟さんは「夢は困難の姿でやって来る」と仰っていますね。夢は何となく「いいもの」というイメージが強い言葉だと思いますが、そこを「困難」と仰るのは、実際そういう風に思われるようなことがあつたんですか?

紫舟 ええ、実際に困難の姿でやって来ました。2015年にルーヴル美術館地下会場で展示する機会を頂いた時です。その前年2014年に日本代表に選ばれて、大変

な思いでフランスまで自分で作品を運び展示、そうしましたら、一番い金賞「審査員賞金賞」を受賞したのです。フランスを代表する名だたるルーヴル以外の美術館や博物館の審査員、十数名が全員一致で書を立体彫刻にした私の作品を金賞に選んで下さいました。さらに、絵も金賞を頂き、翌年には世界でただ一人選ばれる主賓招待アーティストに選んでいただき、260.0m²ほどのあるルーヴルの地下会場で展示する機会を頂きました。2014年は分からぬまま終わりましたが、2015年は半年以上、毎日が困難で……。毎日毎日、困難のオンパレードでした。「困難はこんなに毎日起こるんだ！」と驚くほど、問題が次々発生して、解決できたり、できなかつたり、どうにもならなくなったり、9月から12月まではさらに辛く厳しい毎日になり、毎日苦しいのです。

明を見ながら、それでも「ああ、終わつたあ」と感じる程度が精一杯。ところが、日本に帰り作品をアトリエに運び終えた時、何と今まで起つていたさまざまな問題が総て解決したのです。夢を叶えた実感ではなくて、ただ困難に一つひとつ向き合つて終わりました。腑に落ちた感じでした。

赤塚 困難を乗り越えた、と言つうのとも違つたわけですね。

紫舟 ひょうとしたら、夢というのは心地よくて快適で柔らかくて優しくて温かく包み込んでくれるものではなく、困難の姿をしてやつてくるのかもしれません。なので、人は途中で諦めたり、ステージから降りたり、避けたり逃げてしまう。最初から夢は、困難の姿でやつくると知つていれば、夢をたくさん的人が諦めずに済むのかもしれません。夢は優しくない。夢を叶えた実感はあっても、「夢、最高!」という醍醐味は微塵もありません(笑)。

のオン・パレードでした。「困難はこんなに毎日起こるんだ!」と驚くほど、問題が次々発生して、解決できたり、できなかつたり、どうにもならなくなったり、9月から12月まではさらに辛く厳しい毎日になり、毎日苦しいのです。

赤塚 展示に向けた追い込みの3カ月ですね。

紫舟 誰めればどんなに楽かとも思いました。私も、スタッフも、フランス側も、皆大変で。私はギャラリーや団体に所属しておらず個人で活動していますので、作品50箱ほどの運搬も自分で手配をし、会場に壁を立てる指示を出し、照明家に光を

赤塚 展示に向けた追い込みの3ヵ月ですね。
紫舟 謹めればどんなに楽かとも思いました。
した。私も、スタッフも、フランス側も、
皆大変で。私はギャラリーや団体に所属し
ておらず個人で活動していますので、作品
50箱ほどの運搬も自分達で手配をし、会場
に壁を立てる指示を出し、照明家に光を
調整してもらいました。そのまま初日を迎
てもまだまだ問題は起ります。展示が終
わり、シャルドン・ゴール空港の丸い大きな照
明塔

赤塚 達成感を味わうこともあるんですか?

紫舟 次に夢を叶えられる機会があれば、
その時はその夢を叶える瞬間を味わってみ
たいです。意外かもしませんが、それま
でも今も、夢を叶えること=人生とは思つ
ていませんでした。

赤塚 紫舟さんにとって、人生とはどんなな
ものですか?

紫舟 例えばこれまでインタビューを受け

て「これからは女性進出の時代です。憧れの女性はどなたですか?」と聞かれても、仕事の憧れなのか、プライベートなのか、両方なのか分からなくて、回答できずになりました。先日、松山で皇后陛下と紀子様と一緒の時間を過ごすことができて、この世にこのような素敵な女性がいらっしゃることを知りました。「素敵」を具体的に申し上げますと、『他の命を敬い、他者の存在を尊ぶことができる方』です。例えば、スターになるところが押し寄せ集まつて、ると嫌つたり、見つからぬようにしたり。丁寧にサインや写真撮影に応じると、「神対応」などとSNSで報じられます。

おふたりは、道行く人々、何千、何万人の人々に、お車の中からずっと笑顔で手を振つていらっしゃいました。

赤塚 そうですよねえ。

紫舟 お車から降りてからも、そこにいらっしゃる数百人の人々に対して自ら出向きお近づきになり、ご挨拶をされ、車椅子の方には腰をかがめてお話しになつたり、小さな子には目線を合わせてお声をおかけになつたり、總ての人々の存在を尊ぶかのことく丁寧に接しておられました。美術館に着いても何人の方が並んでいますが、その人達にも温かくご挨拶をされていました。私は美術館の中で自分の作品の案内させて頂きました、その間ずっと私に質問をし

て下さるんですね。質問をするということは、相手に対して関心を示し、その存在を認めることです。目の前の人間に質問をし続けるというのはとても難しいことでもあります。それをし続けて下さる。小さな虫のような命に対しても人にも總ての命を敬つて、總ての存在に対して同じように接して下さいます。一般的には、人は挨拶をしたことのある人、仕事をしたことがある人、見知らぬ人、という風にことなく対応を変えていることがありますよね。

赤塚 皇后様も、紀子様も、總ての人に同じ対応をなさうでいたのですね。

紫舟 慈悲という言葉を超越した溢れる何かで、あらゆる存在を包み込める方に、初めてお会いしました。私は現世でそういう人になれそうにはありませんが、それでも努力することはできると思うのです。もしかすると、人生の中、夢を叶える、成功する、願いを実現する、自己実現、それらは、気付きやきづかけで、人生はそういう人になれるよう努力することとなるなど今は思つています。

赤塚 最後にもうひとつお伺いしたいことがあります。ご自身を文字で表現する所でしたら?

紫舟 「1up」でしようか。

赤塚 漢字ではないんですね。おもしろいと今は思つています。

紫舟 はい、そうです。

赤塚 子どもの頃には武道もなさつたと仰つていましたが、剣道や合気道は今はもうされていないのですか?

紫舟 合気道は大人になつても続けていました、右肩を何度も脱臼するため書家の今は控えています。が、いづれまた稽古を始め、お婆さんになつても続けたいと思っていました。

赤塚 これからも、素敵な作品を楽しみにしています。今日はありがとうございました。

紫舟 こちらこそありがとうございました。



「夢」